

ミカンナガタマムシにご注意ください

1 発生状況

- ・令和7年11月18日の予察巡回調査において、泉州地域のみかんほ場でミカンナガタマムシの成虫を確認した(図1)。
- ・泉州地域の農の普及課、JA植物防疫協力員から、ミカンナガタマムシによる被害を受けたかんきつ園(図2)が多く見られるとの報告が複数あった。

2 特徴と被害

- ・成虫、幼虫ともにかんきつ類のみを加害する。
- ・成虫は体長6~10mmで細長く、体色は黒銅色。1年に1世代をくり返す。成虫の発生期間は5月から10月ごろにわたり、比較的長い。かんきつの葉の周縁部をノコギリ歯状に食害し(図3)、発生の目安となる。
- ・老熟幼虫は体長15~20mmで前胸部がやや大きく扁平、各節でくびれ、体色は乳白色(図4)。ふ化した幼虫は枝や幹の形成層に沿って食害し、成長すると木部に潜りこみサナギになる。サナギの期間はおよそ20日で、羽化の際は幹に半月形の穴を空けて脱出する(図5)。
- ・干ばつや日焼け、寒害、台風、老化等により樹勢が低下した樹に多く発生する。被害は若木よりも成木、老木で多い。被害を受けると枝や幹がひび割れて枯れ、樹脂の漏出が認められる場合がある。ひどい場合は根からの水分供給が絶たれて樹全体が枯死することがある。



図1 成虫



図2 被害多発園の様子



図3 成虫による葉の被害



図4 幼虫※

図5 幼虫による形成層の被害
(矢印は成虫羽化時の脱出孔)

3 防除方法

※原図:(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

(耕種・物理的防除)

- ・冬期の寒害対策、適切なせん定と肥培管理により樹勢の維持に努める。
- ・被害を受けた枝・樹は、成虫発生前(5月ごろまで)にせん定・伐採を行う。
- ・せん定枝・伐採樹は成虫の発生源となるため、園外に持ち出し、適切に処分する。

(化学的防除)

- ・成虫最盛期(6~7月)に薬剤を主枝・幹に塗布または散布する。
 - ・成虫の発生が見られる場合は、薬剤を散布する。
- ・最新情報は農林水産省「農薬登録情報提供システム」で確認してください。<https://pesticide.maff.go.jp/>
- ・薬剤については、Web版大阪府病害虫防除指針も参照してください。「みかん・かんきつ」のページ参照。
https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/boujo_shishin.html